

《彙報》

【千葉大学文学部日本文化学会記録】

第二〇回大会（二〇一九年七月二七日 於千葉大学）

〈研究発表〉

モンゴル語の接辞 *bi.* と *bol* について——日本語の助詞「は」との比較を通して——

人文公共学府博士後期課程 ナリス 氏

大岡昇平文学における「戦闘」——『将門記』前後の諸作品を中心に——
人文公共学府博士後期課程 中山 新也氏

〈講演〉

虚構作品における虚偽と「感動」の罫——「ポスト真実」の時代の児童文学と読書——

千葉大学教育学部教授 佐藤 宗子氏

【二〇一九年度 千葉大学大学院人文社会科学研究所 博士論文題目】

林 旭巧 説明のモダリティに関する研究——説明用法を中心に——

【二〇一九年度 千葉大学大学院人文公共学府 博士論文題目】

趙 松娟 一九三〇・四〇年代の日本文学における〈故郷〉表象

【二〇一九年度 千葉大学大学院人文公共学府 修士論文題目】

ノミン 川端文学と戦後社会——ジェンダー論の観点から

【二〇一九年度 千葉大学文学部人文学科日本・ユーラシア文化コース 卒業論文題目】

阿部 沙織 古代和歌における枕詞の表現

新井 百海 恩田陸『蜜蜂と遠雷』における演奏表現について

石田 沙織 「ふるさと」の味を探索する人々——インドネシア人技能実習生の食生活から——

- 和泉 朱音 夏目漱石『野分』論——高柳周作の「罪」と「病」の「遺伝」——
- 伊東 航汰 『スワロウテイル』シリーズに見る藤真千歳の間人観
- 大木 裕人 動物供養から見る日本人と動物の関係
- 大沼田陽介 環境変化に伴う牧畜民の生活変化——中国内モンゴル自治区スニド左旗チャガン・ガチャを事例に——
- 川嶋 千尋 野生鳥獣の利用形態としてのジビエ——千葉県原市におけるジビエ利用とその周辺——
- 川名 裕華 近世文学における動物観——怪異小説を中心に——
- 川村 心花 古典文学における鬼——女性の心と鬼という視点から——
- 木村 舞人 出版物にみる江戸の名物——『東海道中膝栗毛』を中心に——
- 桐田 珠莉 『銀河鉄道の夜』にみる宮沢賢治の宗教性
- 久保寺彩香 現代語における新語・新用法の許容度に関する研究
- 輿水さゆり 近世における化物の様相——『変化物春遊』を中心に——
- 小長井素賢 『万葉集』における色——染色を中心に——
- 小林恵理子 古代文学における雨
- 是久 由衣 草双紙における妖怪像——『百鬼夜行絵巻』からの影響を中心に——
- 近藤 雅之 いわゆる「敬語の誤用」について——「おられる」という表現を中心に——
- 今野 葵 表現方法から見た漫画読解——平成の少年・少女マンガのコマ割りを中心に——
- 齋藤 迅 小説言語におけるテンス・アスペクトについて
- 坂上征奈美 「漢語十」型副詞について——「普通に」に注目して
- 佐藤 楓 三島由紀夫『憂国』論——「強い女」麗子に着目して——
- 塩谷 桃加 アイヌにおけるの文化——魔払いを目的としたのの利用を中心に——
- 実川 友美 谷崎潤一郎文学における「翻弄」の形——『猫と庄造と二人のをんな』を中心に——
- 洪沢 琴音 梶井基次郎『檸檬』の同時代性と通時性——「詩的精神」に着目して——
- 高橋 千東 古代日本人の死生観——死者の行方——
- 高橋 美裕 『歌経標式』歌論とその受容の研究
- 田邊かれん 『歌経標式』歌論とその受容の研究
- 移動する山車——江戸山王祭と佐倉の秋祭りを結ぶ絆——

- 長坂 肇 雑誌文化から見る欲望の形——カストリ雑誌、戦後の雑誌文化——
- 中嶋 海文 現代社会における「食の外部的化」——大学生の「中食」の利用実態及び意識に関する調査から——
- 永田 拓己 「時をかける少女」論——小説のアニメーション化の観点から——
- 中谷 兄 ウォーキングを使った観光活性化——千葉県銚子市を事例に——
- 長谷川拓己 日本の漫画とアメリカン・コミックにおける音喩について
- 蜂須 実穂 銚子市外川漁港における漁村の生活と食
- 林 茉莉 絵入り版本『曾我物語』考——挿絵に描かれる頼朝と曾我兄弟を中心に——
- 本間 陸斗 日本におけるミニマリズムの普及について
- 八木隆太郎 近世後期のオノマトベに見られる変化と特徴——『浮世風呂』と『浮雲』を中心に——
- 八吹 燦 バイト敬語の許容度についての研究
- 横田 詩織 受動態に関する日独対照研究